

標準予防策チェックリスト

- 視点 ①防護具着脱の教育が実施されている（手袋・マスク・ガウン・ゴーグル）
 ②防護具が必要な場所に、設置され管理されている
 ③患者の病室から出る前に、個人防護具を脱ぎ処理をしている

巡視項目	巡視項目	巡視の視点・根拠	部署自己チェック		ICTチェック	
			良い	要改善	良い	要改善
針・その他の鋭利な物	原則として、針の形状にかかわらずリキャップは行わない	リキャップ禁止についての教育が行われているか				
	鋭利器材を使用後すぐに廃棄できるように、廃棄容器を設置または携帯している	鋭利器材を持ち歩かない				
	鋭利器材使用者自身が専用の廃棄容器に廃棄している	鋭利器材の受け渡しをしない				
	鋭利器材の手による受け渡しを行っていない					
	はみ出したり落下した鋭利器材は、手で扱わない。鑷子やクズバサミなどの使用を指導している	針刺し防止、廃棄する際の曝露防止				
	廃棄容器の処理の際には、容器本体の汚染による曝露や不用意にはみ出した鋭利物による曝露防止のため、手袋を着用している	感染性廃棄物による周囲の汚染や感染拡大、容器へ廃棄する際の曝露防止				
	鋭利器材廃棄容器は、手で蓋を開ける物ではなく、自然に投入できるか、足で開閉できるもので投入口が完全に覆われているもの					
	鋭利器材の廃棄容器は、耐貫通性の容器を使用する	周囲への汚染防止、針刺し防止				
	鋭利器材廃棄容器は、倒れにくいものであるか					
	針用廃棄容器は蓋が閉まっているか					
	廃棄容器は用量の80%程度で蓋をして廃棄している。または指導している					
	安全器材は、使用後すぐに作動させているか	安全器材の使用目的を理解しているか				
	安全器材の正しい使用方法の教育はされているか					
	静脈留置針は安全器材を使用しているか	正しい使用方法が教育されているか				
	患者の除毛についても、可能な限り皮膚損傷リスクの低い器材を使用している					
	手術部門では器材の手による受け渡しによる曝露を防止するための工夫をしている	セーフティーゾーンを設けている				
針刺し事故発生時の報告・対応システムやマニュアルが整備されている	対応時のマニュアルがあるか					

患者配置	[接触感染対策が必要な患者の場合]				
	原則として個室隔離できる	同じ微生物が検出されている患者であるか			
	個室が準備できない場合は、同一疾患患者の集団隔離ができる				
	病原体の毒性や排菌量、同室者の感染リスク、病院あるいは病棟における感染対策上の重要性などを考慮し病室の配備を検討している	伝播リスクが考慮されているか			
	室外に出るとき、患者は十分な手洗いと排菌部位の被覆に努めるよう指導されている	患者指導ができていますか			
	食器、ごみ、タオル、リネン類は、血液等の付着がなければ通常の処理をしている	正しい方法が教育されているか			
	聴診器や血圧計などは患者専用としている				
	退院後の病室の清掃は通常でよいが、手が触れる所は十分清拭清掃している				
	[飛沫感染対策が必要な患者の場合]				
	原則として個室隔離できる	同じ微生物が検出されている患者であるか			
	個室が準備できない場合は、同一疾患患者の集団隔離できる				
	同一疾患の集団隔離ができず多床室で隔離するときはカーテンで仕切るか、ベッド間隔を2m以上離す	伝播リスクが考慮されているか			
	感染性を有する期間の患者は、室外に出ることを制限する	患者指導ができていますか			
	やむを得ず室外に出るときは、サージカルマスクを着用させているか				
	医療従事者が患者から1m以内で医療行為をする場合はサージカルマスクを着用しているか	正しい方法が教育されているか			
	[空気感染防止対策が必要な患者の場合]				
	陰圧個室に隔離	個人用防護具の使用方法が教育されているか			
	部屋の扉は常に閉めておく				
	窓と廊下側の扉が同時に開かないように注意する	交差感染防止のためのスタッフ教育			
	対象者・家族・スタッフの動きの交差が少ない部屋を選択して収容している				
感染症患者と他の患者のトイレ・食堂等の共用を避けているか	患者・家族から同意を得ているか				
どの感染に対しても患者・家族への説明を用紙にて説明を行っているか					
患者への対応はウイルスに対して抗体を有するものが優先して行うことが望ましい	職員管理部門とデータ管理が協働できている				